

トピックス 県民交流広場事業とパワーアップ事業での「参画と協働」の視点による調査・評価

今回の年次報告では、新たに、「参画と協働」の手法やしきみかどのように導入・活用されているかを調査し、評価を試みました。今後、この成果等を生かして参画と協働の評価方法の検討を進めていきたいと考えています。

地域で多彩に展開されている地域づくり活動を支援する代表事業として「県民交流広場事業」と「地域づくり活動応援(パワーアップ)事業」を取り上げ、参画と協働を進めるうえで大切な4つの要素である「ともに知る」「ともに考える」「ともに取り組む」「ともに確かめる」の面から、事業を進める中での課題、工夫等について調査しました。

調査方法等

県民交流広場事業

(対象数) 実施地域(266 地区)

(方法) 実施地区による自己点検・アンケート調査、現地調査等

県民交流広場事業とは：

県民一人ひとりが身近な地域を舞台に多彩な分野で活動に取り組むことができるよう、活動の場の整備と活動に要する経費を助成し、参画と協働によるコミュニティづくりを支援する。

(地域での活動の様子)



地域の高齢者を先生に親子を対象にした竹細工教室を開催 (丹波)



地域ふれあいのつどいの開催 (中播磨)



地域の歴史の掘り起こしと成果の確認(県民交流広場事業より「昔のことを語る会」 神戸)

地域づくり活動応援(パワーアップ)事業

(対象数) これまでに助成を受けた 28 事例 (おおむね各県民局から 3 事例を抽出)

(方法) アンケート調査、現地でのヒアリング調査

地域づくり活動応援(パワーアップ)事業とは：

自治会等の地域団体が提案する、地域をよりよくするさまざまな取り組み等に対して、県民局単位で活動費を助成し、地域の主体的な取り組みを推進する。

(地域での活動の様子)



ため池につながる水路への炭の埋設(リパークリーン・エコ炭銀行 東播磨)



子育て応援団でのパトロール(芦屋市浜町メンズクラブ 阪神南)



「八朔のひなまつり」の開催(室津を活かす会 西播磨)

参考：参画と協働の要素

【ともに知る】

地域の状況や課題などについて、みんなで知らせあい、分かり合う

【ともに考える】

みんなで知恵を出し合い、話し合い、ともに取り組む方向を考える

【ともに取り組む】

課題解決に向けて、お互いの持っている力を生かして、みんなで協力しながら実効していく

【ともに確かめる】

これまでの取り組みについて、できたこと、できなかったこと、その原因などを明らかにし、今後どうするかをみんなで考える

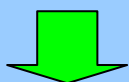
調査結果の概要と評価

2つの事業を調査した結果、地域では多様な主体がさまざまな課題に直面する中で、解決策をみんなで考え一つひとつ工夫を重ねていることが、活動の充実や継続につながっており、参画と協働は地域に確実に根づきつつあると評価できました。県民交流広場事業では、地域コミュニティレベルで総合的に取り組むことができる拠点づくりが進み、パワーアップ事業では、きめ細やかな支援を続けてきたことが、活動に広がりや深まりを生み、実施団体の自立にもつながっています。また、共通する課題や相互活用できると思われる工夫等が多くみられたため、ここでは両事業を合わせて4つの要素ごとにまとめています。

【ともに知る】

課題

広報、情報伝達のしくみづくり
効果的な広報・PRの検討
情報の発信・収集・共有の充実



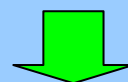
取り組み・工夫

- (広報媒体の工夫)
多様な媒体の活用
「町内会を通じた全戸配布」「隣保ごとの回覧」
「掲示板への貼付」「携帯・パソコンの活用」
- (情報共有)
定例会の開催によるメンバー間の情報共有
「活動の現況と今後の予定」など
議事録のメンバーへの配布
- (情報収集と発信)
積極的な情報発信を心掛ける
「活動を広めるための交流」「ホームページでの情報発信」など
活動趣旨に賛同する応援団からの情報提供
「地区外の人、大学教授、行政職員」など
地域の人から自主的に伝わる情報の活用
「防犯情報等の自治会の回覧やホームページで速やかな伝達」
- (取材への対応)
メディアへの取材実績に比例した会員の増加
傾向と個人等からの問い合わせの増加
- (市や県との連携)
身近な市町の広報の活用
「イベントの周知 参加者の増加」など
県民局による後方支援
「団体の活動を積極的に情報発信」など

【ともに考える】

課題

初動時からの綿密な事業計画等の検討
地域住民間の認識の共有
「どのような地域にしたいのか」「活動の目的、指針、方向性」など
誰でも参加できるしくみづくり



取り組み・工夫

- (定期的な意見交換)
定期的に活発な議論のできる場づくり
- (広く意見を聴取)
実行委員会形式でのヒアリング実施
「地域の要望をすべて聞くことができる」
「かかわりの少なかった団体と意見交換が可能」など
多様な関係者からの積極的な意見聴取
- (活動理念や認識の共有)
活動理念のメンバー間での確認
団体間の連携、共通理解の促進による地域全体への活動の拡充
- (地域特性を踏まえて考える)
地域全体で目的を持ち、思いを共有
「他地域の成功した結果をまねるだけではだめ」
「地域の特性を理解する」
- (機動的な推進体制)
活動・事業の内容に応じた体制づくり
「時宜に応じた部・班の設置やスタッフ配置」
「自主的な活動の尊重～企画から実施まで～」

(地域での活動の様子)



定例会の開催
(ボランティアグループ children 阪神北)



舞台発表会の打ち合わせ
(県民交流広場事業より 中播磨)



定例会の開催 (小野託児サークル
このゆびと～まれ 北播磨)

【ともに取り組む】

課題

(人材)

人材確保の工夫
人材の育成

(組織)

事務局機能(ひと・もの・資金など)の充実
組織が脆弱化
「地域活動団体の多様化」「同じ人への活動の集中」など

(住民からの期待)

活動の周知に比例した地域住民の過度の期待
「活動範囲外でも頼られる」など

(行政の役割)

地域実情をよく把握した上での支援・見守り
コーディネート力の充実
「活動グループを結びつける」など



取り組み・工夫

(人材の確保)

自治会広報を利用したメンバーやボランティアの募集
小学校等との連携

「親子や子どもの参加増加」
「三世代交流事業の活性化」

女性リーダーの育成と活用

「女性グループから役員を選出」など

メンバーの年齢層に幅をもたせる工夫

大学(教授等)の協議会等への参画促進

「今後のまちづくりへの専門性の高い提言」「助成金の紹介」
「学生の協力を得やすい」などメリットが大きい

(楽しめる活動)

メンバーの負担にならない付随効果のある活動

「活動が楽しい」「持ち帰るものがある」など

できるだけ多くの人での役割分担

「一部の人だけに負担をかけない」

活動の基本ルールづくり

「それ以上の活動はしたい人が自主的にできることを認める」

「活動を分割し、メンバーを適材適所に振り分ける」

「できる人ができる時にする事を基本とする」など

メンバーの連帯感や懇親を深める機会を持つ

(わかりやすい活動)

地域の人に受け入れられ、感謝されることによる活動のやりがいづくり

(活動内容の工夫)

時宜に則した計画の見直し

「活動が軌道に乗り、経済的にも自立できるものは計画から外し、よりグレードアップした活動とする」など

「重荷にならない」「継続性がある」事業選択

「常に新しいことをするのではなく、既存の事業も活用した内容の充実」など

(自己資金の活用)

収入確保の努力

活動の楽しみの創出

「一部を飲食費に充てることで経済的負担も軽減」

雑務の軽減

「弁当代等を集金する雑務が発生しない」など

(市民ファンドの設置)

地元信用金庫等が設置するファンドの活用

「企業や町外に住んでいる人からの寄付で成り立つ市民ファンドは、行政の助成金よりも団体には使いやすい」など

(経費のかからない活動とする)

メンバーの能力活用

「経費(印刷製本費等)の抑制ができた」など

(アイデアを加えていく)

新たなアイデアを出しやすい土壌づくり

「活動に少し変化を加えたり活動内容を広げることで、協働の相手方や参加者増える、マスコミに取り上げられるようになる、増収等、活動が進展・継続しやすくなる」など

(協働する双方に役立つしくみの構築)

ルールを遵守し対等な関係をつくる

「小規模作業所に自立をめざした支援をしつつ、活動団体は収益を確保する等、対等な関係で継続的な協働を成立させる」など

(交流を協働につなげる)

同様の活動を実施するグループとの連携による活動地域の拡充

「防犯」「青少年の見守り」など

継続性のある県内外の他のグループとの交流

「一過性に終わらせない工夫をする」など

積極的なシポジウム等での発表や交流の促進

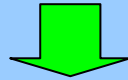
「活動が周知され、いろいろな団体から協働が申し込まれるその協働により活動が活性化 マスコミに取り上げられる参加者の増加、という好循環を招いている」など

【ともに確かめる】

課題

(現状の認識)

将来的な持続を考えながら活動しているので、計画の進捗ペースとのジレンマ
活動を広げすぎ



取り組み・工夫

(活動の見直し)

自己点検や評価・検証結果を踏まえた柔軟な対応
「活動プランを見直すなど、活動の場に柔軟に反映させる」
常に原点に立ち返る
「行政や住民から色々なことを頼まれ活動が広がるので本来の目的を意識する」など

(地域での活動の様子)



町並ガイドによる案内
(口銀谷の町並みをつくる会 但馬)



地域のボランティアによる児童見守り活動
(県民交流広場事業より 淡路)

県の主要施策での「参画と協働」の視点による評価

県の施策全般での活用状況を見るために、「元気ひょうご」の実現に向けて県が重点的に取り組む施策・事業をまとめた「県政推進重点プログラム 50」に掲げる取り組みについて、平成 19 年度の参画と協働の手法活用の状況を各事業担当課で自己評価してみました。

各段階とも「3 ほぼできた」と「4 できた」を合わせると 90% 以上となり、おおむね浸透している状況がうかがえます。

今後とも、こうした自己評価を実施することによって、職員の意識啓発にもつなげていきます。

段階 評価	ともに知る		ともに考える		ともに取り組む		ともに確かめる	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1 できなかった	5	1.0	5	1.1	5	1.1	7	1.5
2 あまりできなかった	12	2.6	19	4.1	24	5.3	35	7.6
3 ほぼできた	245	52.4	255	54.9	241	53.6	251	54.2
4 できた	206	44.0	185	39.9	180	40.0	170	36.7
合計	468	100.0	464	100.0	450	100.0	463	100.0

施策・事業によっては、「ともに知る」「ともに考える」「ともに取り組む」「ともに確かめる」のそれぞれの段階で活用できないものもあるので、合計数は一致していません。

